

# 米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

## ●米国：2021年7月12日公表 USDA Crop Production

### 6月の農業概況

6月の平均気温は、米国の大部分の地域で平年並みを上回った。カリフォルニア州、ネバダ州、太平洋沿岸北西部、大平原地域北部及びロッキー山地北部では、6月の平均気温が平年を3.3℃以上上回った。これとは対照的に、ミシシッピ渓谷南部、米国南東部及び大平原地域南部における大部分の地域では、6月の平均気温が平年をやや下回った。カリフォルニア州、ネバダ州、ニューイングランド州、太平洋沿岸北西部、大平原地域中央部及び北部並びにロッキー山地北部の大部分の地域では、6月は平年に比べて乾燥した状態であった。これとは対照的に、五大湖地域、ミシシッピ渓谷、南部平原地域、米国南東部及び米国南西部では、6月の降水量が平年の2倍に達した地域があった。

表1 米国の銘柄別作付面積・収穫面積

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
ヒヨコマメ	109,190	138,000	106,390	135,410	1.82		193,820	
乾燥インゲンマメ	704,160	609,870	678,460	583,160	2.2		1,495,180	
乾燥エンドウ	404,290	378,390	393,760	358,960	2.5		985,790	
レンズマメ	213,680	236,740	208,010	220,960	1.62		336,160	

データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は2021作物年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。  
作物生産量2021年7月12日公表。米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)。  
作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、メートル法の単位(トンまたはヘクタール)で表示しており、2020年度及び2021年度について米国が公表したものである。

## ●カナダ：2021年6月20日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省の2020/21作物年度及び2021/22作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。

### 乾燥エンドウ（抜粋）

2021/22作物年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は、前作物年度におい

て収益性が向上し、輸出需要が堅調であるにもかかわらず、2020/21作物年度に比べて10%減少して155万haとなる見込みである。

州別にみると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積の55%を占めており、アルバータ州が37%を占め、残りの作付面積はカナダ各地に散在している。

生産量は、単収が向上したことからわずかな減少にとどまって400万tとなる見込みである。しかし、生産量の減少が推定されていることから、供給量は9%減少する見込みである。供給量が減少することから輸出量は減少する見込みであり、中国及びバングラデシュがカナダ産乾燥エンドウ市場の上位を占めている。期末在庫量は減少して30万tとなる見込みであるが、これは長期的な平均値を下回っている。平均価格は2020/21作物年度と変わらない見込みであるが、これは国内供給量が減少する一方で世界的な供給量が変わらない見込みであることによる。

### レンズマメ（抜粋）

2021/22作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は、2020/21作物年度の後半にレンズマメ生産者価格が大幅に上昇したにもかかわらず、前作物年度と変わらず170万haとなる見込みである。サスカチュワン州がレンズマメ作付面積の89%を占め、残りをアルバータ州及びマニトバ州が占める見込みである。生産量は、AAFCの予測によれば、減少して265万tとなる見込みである。期初在庫量及び生産量が減少していることから、供給量は減少して280万tとなる見込みである。輸出量は2020/21作物年度に比べて減少して240万tとなる見込みである。期末在庫量は引き続き少なく、10万tとなる見込みである。等級別の分布が平年並みであるとの予測のなかで、最高級の等級の価格が上昇しており、平均価格は2020/21作物年度に比べて上昇する見込みである。

### 乾燥インゲンマメ（抜粋）

2021/22作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ作付面積は、他の作物に比べて収益性の低下が予測されることから、2020/21作物年度に比べて9%減少する見込みである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の36%を占め、マニトバ州が38%、アルバータ州が16%を占めて

おり、残りがサスカチュワン州、ケベック州及び沿海諸州となっている。生産量は減少して39万tとなる見込みである。供給量は、期初在庫量が多かったこととおおむね前作物年度と変わらない見込みである。供給量が変わらない見込みであるにもかかわらず、輸出量はわずかに減少する見込みである。期末在庫量は、増加する見込みである。ホワイトピー・ビーン及びピントー・ビーンについて北米での供給量が減少する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格はわずかに上昇する見込みである。

### ヒヨコマメ（抜粋）

2021/22作物年度の作付面積は、2020/21作物年度に比べて大幅に減少する見込みであるが、これは他の作物に比べて収益性が低いことによるものである。州別にみると、サスカチュワン州がカナダ全体のヒヨコマメ作付面積の大部分を占めており、残りをアルバータ州が占めている。生産量は大幅に減少して14万5,000tとなる見込みである。生産量の減少が期初在庫量の増加により緩和されていることから、供給量はわずかに減少するにとどまる見込みである。輸出量は変わらない見込みであり、期末在庫量は減少するものの、引き続き歴史的にみて多い値となる見込みである。2021/22作物年度の等級別の分布が平年並みであると予測されることから、世界的に供給量が減少していることにより、平均価格は上昇する見込みである。

表2 カナダの豆類の作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ[a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]	2019-2020	2020-2021[f]	2021-2022[f]
作付面積 (1,000ha)	1,753	1,722	1,553	1,530	1,713	1,707	160	185	167	159	121	86
収穫面積 (1,000ha)	1,711	1,685	1,520	1,489	1,705	1,680	150	183	161	156	120	84
単収 (t/ha)	2.48	2.73	2.6	1.6	1.68	1.58	2.11	2.68	2.39	1.61	1.79	1.73
生産量 (1,000t)	4,237	4,594	3,950	2,382	2,868	2,650	317	490	385	252	214	145
輸入量 (1,000t) [b]	82	100	90	90	105	75	75	65	75	48	43	45
総供給量 (1,000t)	4,631	4,927	4,490	3,327	3,182	2,825	442	580	580	440	507	475
輸出量 (b)	3,709	3,700	3,400	2,734	2,700	2,400	361	405	400	105	135	135
国内総利用量 (c)	689	777	790	384	382	325	56	55	55	85	87	85
期末在庫量 (1,000t)	233	450	300	209	100	100	25	120	125	250	285	255
在庫量/利用量 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
平均価格 (\$/t) (d)	265	340	340	485	630	660	985	910	925	490	645	660

[a] 作物年度 (8月から7月)。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食料及び加工原料用+飼料用副産物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: カナダ農業食料省による推定。ただし、2020/21年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局による。

資料: カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省 (AAFC)。

### 概観（抜粋）

2021/22冬作年度の生産見通しは、全国的に平年を大きく上回るものと予測されているが、地域により差異がある。冬作年度の始めの生育条件は多くの主要生産地域で良好であった。西オーストラリア州、ニューサウスウェールズ州及びクィーンズランド州では、大部分の生産地域で夏季及び秋季に時宜を得た降水が得られた。これらの生産地域で生育条件が良好であること、及び世界的に高値となっていることにより、全国的に冬作の作付面積が増加して過去最高記録に達する見込みである。上記の各州、特にニューサウスウェールズ州の大部分の生産地域では、冬作年度の始めに平年並みの水準を大きく上回る土壌水分含有割合が得られており、冬作期間中を通じておおむね良好な降水量が得られるとすれば、現在はネズミの被害が生じているものの、生産見通しは良好である。これとは対照的に、ヴィクトリア州及び南オーストラリア州の大部分の生産地域では、秋季を通じて作付け時の条件に恵まれなかった。この2州では、大部分の作物の生育が冬季に十分な降水量を得られるかどうかにかかっており、冬季の降水量が平年を下回るようであれば、生育に支障が生じかねない。

表3 オーストラリアの豆類供給量及び利用状況

作物名	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18 (1,000t)	2018-19 (1,000t)	2019-20s (1,000t)
生産量						
ルーピン	549	652	1,031	714	799	591
フィールドピー	290	205	415	317	160	210
ヒヨコマメ	555	875	2,004	998	205	235
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	306	398	637	258	540	376
フィールドピー	124	72	148	189	87	165
ヒヨコマメ	1	1	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	243	254	395	456	259	215
フィールドピー	168	134	268	130	75	48
ヒヨコマメ	663	1,145	2,293	724	372	349

a：生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

s：ABARESによる推定。

注：生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出入量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出入量の数値と一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の規模の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、2015/16年度以降は推定生産額40,000ドル以上の規模のEVAOによる生産量となっている。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表4 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2019-20s	2020-21s	2021-22f	2019-20	2020-21s	2021-22f
ヒヨコマメ	309	508	607	235	733	733
ファバビーン(ソラマメ)	215	269	279	313	510	469
フィールドピー	248	209	218	210	294	252
レンズマメ	412	368	409	526	634	588
ルーピン	665	496	455	591	774	616

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヶ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるのかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表5 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積(1,000ha)	生産量(1,000t)	作付面積(1,000ha)	生産量(1,000t)	作付面積(1,000ha)	生産量(1,000t)	作付面積(1,000ha)	生産量(1,000t)	作付面積(1,000ha)	生産量(1,000t)	作付面積(1,000ha)	生産量(1,000t)
ヒヨコマメ												
2021-22f	280	316	33	31	280	370	10	10	5	6	0	0
2020-21s	220	374	45	68	230	275	8	11	5	5	0	0
2019-20	66	24	38	26	171	162	21	18	13	5	0	0
2020/21作物年度までの5年間の平均	255	324	42	45	325	434	22	24	8	8	0	0
フィールドピー												
2021-22f	37	45	61	67	0	0	90	95	30	45	0	0
2020-21s	34	61	55	83	0	0	85	105	35	45	0	0
2019-20	28	18	69	58	0	0	106	90	46	44	0	0
2020/21作物年度までの5年間の平均	46	46	68	75	0	0	93	112	34	46	0	0
レンズ豆												
2021-22f	7	8	190	247	0	0	200	320	12	14	0	0
2020-21s	7	10	180	306	0	0	170	300	11	18	0	0
2019-20	5	3	225	268	0	0	161	234	21	21	0	0
2020/21作物年度までの5年間の平均	5	5	187	233	0	0	172	298	11	12	0	0
ルーピン												
2021-22f	65	70	40	41	0	0	50	55	300	450	0	0
2020-21s	68	130	38	44	0	0	40	50	350	550	0	0
2019-20	43	24	43	39	0	0	45	41	533	485	0	2
2020/21作物年度までの5年間の平均	63	58	42	44	0	0	53	62	431	617	0	1

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia